

## 他自治体における屋内スケート施設の概要について

	エムウェーブ	YS アリーナ八戸	新潟市アイスアリーナ	埼玉アイスアリーナ	盛岡市アイスリンク	磐梯熱海アイスアリーナ	FLAT HACHINOHE	アイスリンク仙台
アイスリンク	400m ダブルトラック	400m ダブルトラック 中地 コート 2 面	60m×30m	60m×30m	60m×30m	60m×30m	60m×30m	56m×26 メートル
サブリンク	60m×30m	—	カーリング 3 シート	カーリング 3 シート	カーリング 2 シート	—	—	—
建設費	348 億円	126 億円	約 23 億円	約 16 億円	約 22 億円	非公表	非公表	不明
敷地面積	111,500 m <sup>2</sup>	62,274 m <sup>2</sup>	9,997 m <sup>2</sup>	不明	13,718 m <sup>2</sup>	8,561 m <sup>2</sup>	約 15,000 m <sup>2</sup>	不明
延床面積	76,189 m <sup>2</sup>	26,274 m <sup>2</sup>	5,499 m <sup>2</sup>	5,297 m <sup>2</sup>	4,165 m <sup>2</sup>	4,439 m <sup>2</sup>	約 7,200 m <sup>2</sup>	5,628 m <sup>2</sup>
リンク開設期間	10 月～3 月	7 月～3 月	通年	通年	通年	9 月～5 月	通年	通年
観客席	6,500 席	3,000 席	1,000 席	—	96 席	216 席	アイスリンク利用時 3,500 人規模収容	—
駐車場	地下 600 台 屋外 300 台	600 台	96 台	90 台	223 台	68 台	28 台	300 台
供用開始	平成 8 年	令和元年	平成 26 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 6 年	令和 2 年	昭和 63 年
設置場所	市有地 ※建設時にその他の 五輪関連施設とともに 民有地を買収	市有地 ※体育館、プール、 野球場等と一体のエ リア内（長根公園）	市有地 ※鳥屋野潟南部開発計画 のウェルネスゾーン ※市民病院隣接	県有地 ※県立武道館隣の上尾運 動公園内駐車場に建設	市有地 ※市総合アリーナ・プー ルと一体のエリア内	市有地 ※磐梯熱海スポーツパー ク、郡山ユラックス熱海 （温泉施設）が近接	市有地 ※H9 から市が進めてき た八戸駅西土地区画整理 事業地内	民有地 ※仙台泉ショッピングセ ンター →現：三井不動産スポー ツ・リンク・シティ・フ ァンテ
整備手法	・施設は長野市が所有し、市・長野県と民間が出資する第三セクターの株式会社エムウェーブが指定管理者として運営管理	・施設は八戸市が市立施設として整備、国費を除く整備費の地元負担について、県が市に全額補助 ※維持管理は市の負担	・市が市有施設として費用を負担し、DBO※方式により整備 ※ DBO 方式：施設の設計や建設、供用後の運営管理を民間に委託（施設の所有、資金調達は公共が実施）  ・新潟パティネレジャーが運営管理（指定管理／運営期間は約 15 年間）	・埼玉県が保有する土地を、県体育協会を介して、民間事業者（パティネレジャー）へ無償貸与  ・建設費は民間事業者（パティネレジャー）が拠出	・盛岡市が建設し、盛岡市スポーツ協会が運営管理（指定管理） ※市総合アリーナ、プールについても同協会が指定管理	・福島県が建設し平成 18 年に郡山市に移譲 ・現在はゼビオコーポレート株式会社が運営管理（指定管理） ※平成 25 年度までは郡山市観光交流振興公社が管理運営 ※磐梯熱海スポーツパーク、郡山ユラックス熱海（温泉施設）を含め一括で指定管理	・民間事業者（クロススポーツマーケティング）が建設・運営  ・八戸市が土地（区画整理事業保留地）を無償貸与・年間利用料（1 億円／年、30 年間）を支払い ※八戸市は利用料を支払い、年 2,500 時間の利用枠を得る	・昭和 63 年にダイエーの子会社が運営する「オレンジワン泉」として開場  ・平成 16 年に経営難により閉鎖したが、平成 19 年に民間事業者（加藤商会）が経営受託 ※改修費 1 億 6 千万円のうち、宮城県と仙台市が 5 千万円ずつ（計 1 億円）補助
備考						・夏期はスケートボードやインラインホッケーなどの競技利用が可能	・アイスリンクの上に可動式断熱床を設置することで、アリーナへの転換（屋内の球技や音楽等のイベント）が可能	